

コロナ禍、日商簿記ネット試験導入、ピンチはチャンスで良カリキュラムへ



成長し
自分が
く
になる。



学校法人 清尚学園

日本海情報ビジネス専門学校

たなか まさお

教務部 田中 正雄 様

Q1：はじめに日本海情報ビジネス専門学校について教えてください。

日本海情報ビジネス専門学校は、1988年に全国的にOA化が進む中、情報、経理事務に関する専門的な知識を学習し、地域で活躍する有為な人材を育成する専門学校を鳥取県に、という趣意で米子に設立されました。今年で開校33年目となります。

設置学科は情報、医療事務、公務員を目指す3分野、修業年限の違いで5つのコースを設置しています。学生数は、全校で100名ほどの専門学校です。

Q2：学生の皆さんの就職先はどういったところになるのでしょうか？

情報ビジネスコースではIT系を希望する学生が多いです。今年、既に内定を頂いている学生は、県内のIT系の企業に決まっています。また、事務系・営業系・総合職に就職する学生もいます。いずれにせよ、学生の多くは「県内で就職したい」という希望を持っています。

一昨年度は情報ビジネスコースの卒業生全員が、鳥取県内に就職が決まりました。町役場で、公務員として頑張っている卒業生もいます。昨年度も卒業生全員が地元で就職して頑張っています。

医療事務の分野では、鳥取県内の個人病院、薬局、大病院などの医療機関の事務職員に就職しています。また、医療機関だけでなく、一般企業の事務職員に就職する学生もいます。

公務員受験コースでは国家公務員に合格し、県外に就職する学生もいます。また、他県の公務員を受験する学生などもありますが、大半の学生は県内を希望しています。国家公務員と県内の地方公務員で両方受かった場合、県内を希望する学生が多いと思います。

Q3：日商簿記の学習については、どの学科で実施されているのでしょうか？



取得を目指す級に違いはありますが、すべてのコースで簿記を学習するようにしています。

働く場所が一般の企業であっても行政の場であっても、やはり経理的な部分の意識や数字の感覚を掴むことは大切であり、そのうえで簿記は最適な学習ツールだと思っています。仮に経営者になったとしたら、財務諸表を作成する知識も必要です。今後、社会人となる学生にとって簿記の学習は必要だと考えています。

情報ビジネスコース、医療秘書コース、医療ビジネスコースでは、まず1年のうちに日商簿記3級を取得します。その後、情報ビジネスコース、医療秘書、ビジネスコースの希望者は2級の学習内容に入っていきますが、学習の特色として、まずは工業簿記、それから商業簿記を学習して、受験するという流れになっています。

3級から2級へとステップアップするとき、商業簿記はレベルが一気に高くなるので、簿記から気持ちが離れてしまう学生がでてきてしまいます。それであれば、工業簿記のほうが点数は取りやすく学生のモチベーションも保てるといった理由からです。

もちろん工業簿記も進んでいくと、もっと高い知識が必要になり、たくさんの単語が出てきて、勘定科目も多くなってきます。ただ、全員が日商簿記2級を合格することは難しく、そういった学生については工業簿記に注力してもらい、全経の2級工業簿記の合格を目指す、といった選択もできます。

また、公務員受験コースでは、9月までは基本的に公務員試験に集中して進めていきます。その後、試験が終わったところで、ビジネス知識やPCスキルを学習するのですが、その期間はそう長くありませんので、日商簿記初級を取得しようと勉強しています。

Q4：日商簿記は昨年度、コロナ禍の影響での中止や、その後のCBT導入といろいろありましたが、御校ではどのような影響がありましたか？



昨年はコロナ禍もあって、いろいろと大きな影響が出ました。これまでもであれば、2年生が「6月の日商2級に合格しよう！」と頑張るのですが、その6月の試験がなくなってしまったのは、ダメージがすごく大きかったです。仕方なく、「次の11月試験目指そう」ということになりましたが、学生にとっては、なかなかそこまでモチベーションが保てなかったようです。6月に行われていたら合格圏内だったかもしれないという学生もいましたが、11月まで気持ちがもたず、合格できなかったというようなこともあり、苦慮しました。

いずれにせよ、日商簿記は11月試験からの再開を受けて、筆記の形式で受験することができました。ただこれも人数制限があったので、事前に米子の商工会議所と相談をさせていただきました。社会人のコースも受験するので、11月は3級の受験が多くなります。そのため、受けられないと困るなと思いましたが、幸いなんとか全員受験をすることができました。

12月に始まったネット試験（CBT）に関しては、始まったばかりということで、私たちもどう対応したらいいのかと悩んでいました。実際に受験したのは数名です。11月試験で合格できなかったで、1月の終わりに受験したいという学生もいました。

ただ、問題用紙にメモができないことに戸惑ったり、操作に不慣れだったこともあり苦戦したようです。時間が2時間から1時間になって、問題数も減って楽になるんじゃないか？という意識が少しあったようですが、実際に受けてみると時間が不足して、結果的に合格までは届きませんでした。

Q5：御校での簿記の学習カリキュラムをお教えてください。

試験制度が変わる前までは、情報コースと医療コースの1年生は11月に3級を受験するというカリキュラムでした。以前は6月に受験、ということもあったのですが、なかなか難しく、それなら、11月の試験で全員合格を目指す、という方針に変えました。

簿記の授業は週8コマっていましたが、夏休みを挟んでしまいますので、その間に忘れてしまったりすることが課題でもありました。

11月試験に合格した後は、2級の内容に入り、1年の間に工業簿記を終了させて、商業簿記へと進みます。それで、2年生の6月に2級を受験するというカリキュラムでした。

今年からは、情報の1年生については6月の統一試験以外でも受験が可能になりましたので、夏休み前に日商簿記3級の取得を目指すカリキュラムに変更しました。6月の後半から7月の中盤にかけて、CBTで受験をしていく予定です。そのため、今年度の1年生はCBTで受験しますが、今後、もし自校舎内での受験が可能であれば活用したいと考えています。

今年度より、簿記の授業は今年から週8コマから10コマに増やしました。また、5月からは週に2回、放課後の補講を実施しています。これにより、6月までに出題範囲の内容を学習し、早めに模擬試験などの検定対策ができます。「簿記は習うより慣れる」と言われますが、とにかく練習をし、問題の対策をしていく方途です。

この10コマは、夏休み明けからは情報コースであればプログラミングやPCに関する授業となり、専門的な部分を強化していきます。医療コースの方でも、医療事務に関する検定試験がたくさんあるので、そちらの対策に充てます。

新しい形への対応にはいろいろと苦労しました。こちらには試験会場がまだ多くなく、曜日や時間に限られおり、学生も交通手段に困るという不安点もあります。ただ、早めに3級を取得することで、各コースで専門的な学習時間を増やすことができます。ピンチはチャンスといいますが、カリキュラムは良くなっていると考えています。

Q6：簿記の授業を進めていくうえで、苦労されている点や工夫されている点について教えてくださいませんか？

事務職を志望する学生が多いため、働き始めて困ることがないようにしたいと考えています。そのため、簿記の試験対策だけではなく、実際の仕事の場面を意識させるようにしています。試算表が何故あるのか、お金や利益・損失が少しでも違っていたら企業にとって大変なこと、そのためミスが無いように定期的に確認の表を作っていく必要があること、などを伝えています。仕事をしていくうえで、どういった点が大切なのかをイメージしやすくなるよう気を付けています。

また、簿記3級でも出題テーマはいろいろあります。今、学習している内容が日々の取引の仕訳や業務なのか、定期的な確認作業なのか、それとも決算に必要な仕訳なのかなど、どういった業務なのかをきちんと伝えるようにしています。タイムテーブルを書いて学生がイメージ付きやすいようにしたり、時間の流れや業務のタイミングをきちんと教えたり、絵や図を書いたり、実演を試みたりと、なるべくイメージを持ってもらうよう工夫をしています。

しかし、学生には社会経験がないので、言葉のイメージがつかないことがあり、理解してもらうことが難しいと感じることもあります。例えば、預金通帳を持っていない学生には預金についての説明が伝わりにくいなどです。また、2級では3級以上に読解力も必要です。以前の仕訳、今後の仕訳などのイメージも大切です。大人ならイメージできても、学生には分かってもらえないことが多いので、それに説明時間が多くかかります。

Q7：TACの教材についてどのような印象をお持ちですか？

『合格テキスト』と『合格トレーニング』を使っていますが、説明が丁寧で流れも良いので、教える立場から良いテキストだと考えています。

学生にとっても、読んでいてたくさん単語が出てくるので、以前、学習したことを覚えていないということが多々ありますが、「教科書見返してごらん」という、「あ！」という反応が返ってきます。振り返りでも理解しやすい教材になっていると思います。

また、トレーニングは問題が多くあるので、知識、学力を定着させるために活用しています。問題演習も多く、試験の対策問題も多くてありがたいです。

今後、学生は日商簿記試験をCBTで受験するため、本番で戸惑うことがないように対策を進めていかなければなりません。TACは、予想問題などで試験問題がパソコンで体験できる試験プログラムがあり、今後、試験対策で活用しますが、自宅にパソコンを持っていない学生もいるので、学校で対策の時間を確保していこうと考えています。



Q8：簿記以外で、学習や就活に関して独自に力を入れていることなどはありますか？

一つ目は、年に2回、4月の終わりと9月の終わりの1週間に「ビジネスマナー週間」を設けていることです。

専門学校ということもあり、多くの学生が本校を最終学歴として社会に出ていきます。就職先にもよりますが、卒業後はスーツを着て出勤する学生が大半です。このビジネスマナー週間にビジネススーツで過ごしてもらい、就職後のギャップを減らすことを目的としています。この期間は学生がいつもより凛々しく見えます。

1年生の終わりくらいからは就職活動をしていけないといけないので、そのときにスーツや靴、バッグがなかったりと、直前に慌てることになります。ですから、このタイミングで一式揃っているか確認ができます。

この期間には外部から講師を呼んで、着こなし術や女性のためのビジネスメイクといった指導も行っています。ほかにも会食時のマナーを覚えてもらうために、ホテルでの会食も体験します。フォークやナイフ、ナフキンの使い方を学びます。

また、この時期には合同企業説明会がありますので、1年生も説明会に参加し、企業との接点をつけるようにしています。

二つ目はプレゼン発表会です。これは1月の後半に行います。本校の全学生が数人のグループをつくって研究テーマを決め、それを外部の会場で発表するというものです。プレゼンテーション能力を高めることを目的としており、司会や進行も学生、発表するものも学生、全員スーツで行う発表会です。

発表テーマは、コミュニケーションの考察、成果物の発表、リモートワークツールの使用実演など、さまざまです。なかなか聴き応えのある発表会です。テーマは基本的には学生が考えますが、場合によっては、少しアドバイスもします。働き始めてからは自発的に考えたり、チームで動いたり、役割分担を決めて考え、行動するといったことが大切になってきますので、こういう体験を卒業後に活躍してもらえればと考えています。

Q9：そのほか、先生方のお考えや学生の要望などで取り入れたいことなどはありますか？

情報ビジネスコースでは今年から、課題研究という授業を週に3時間設けることにしました。これは、今まで学習してきた内容や、必要だと思う能力を自分で考えて、自発的に学習して、その成果を発表する授業です。

資格や検定試験に向けての授業が多いのですが、それ以外にも自発的に自分に何が必要なのか、何を勉強したいのか、どんな力をつけたいのかということを設定して、自ら知識や情報を得るといった学習に取り組んでもらいたいと考えたものです。

社会に出れば、何でも手取り足取りで教えてもらえることはありません。だからこそ自分で考えて、業務に取り組んでいくという力が絶対に必要だと思います。こうした経験を通して人間力を身につけてほしいと考えています。

専門性と人間力を有した、地域で活躍する人材になって欲しいという願い、想いを込めてカリキュラムを毎年、見直しています。

Q10：今後の展開についてお聞かせください。

NB 日本海情報ビジネス専門学校



多くの学生たちは卒業後、いろいろな企業や医療機関、官公庁などに就職して、働いていくことになります。内定先の企業や団体に対して、本校教育への要望などを聴き取り、改善し、専門学校としてもっと良い教育ができるようにしていきたいです。

現在の社会に必要とされる知識や技術、社会のニーズといったことを把握して、教育に生かしていきたいと考えています。そのためにも、まずは企業の方々と連携を深めていくことが課題の一つです。

本校の学生の大半が地元への就職を希望しています。地元企業から良い評価をいただけるよう学校も学生も成長をしていきたいと考えています。

～ インタビューを終えて ～

Zoomで行わせていただいたインタビュー。ゆっくり、はっきりとした口調で田中先生が語られる創意工夫されたカリキュラムから、画面越しではありますが学生の将来に対する熱い想いが伝わってきました。お忙しいところ、取材をお引き受けいただきありがとうございます。